



Education × Technology

EdTech

エドテック

が変える

教育の未来

教員研修のご提案

一般社団法人教育イノベーション協議会



一般社団法人教育イノベーション協議会 概要

デジタルテクノロジーの劇的な進化を受け、AI, IoT等、先端テクノロジーを活用した Industry 4.0（第四次産業革命）が叫ばれています。これからの産業、仕組、ルール、制度等、あらゆる面でイノベーションが不可避となっています。教育もそのひとつと確信した私たちは、テクノロジーを活用した教育イノベーション(=EdTech)を推進するため、当団体を設立いたしました。

法人名	一般社団法人教育イノベーション協議会
	Association of Innovative Education
役員	代表理事 佐藤 昌宏
所在地	東京都港区南青山2-2-15 ウィン青山942
設立	2017年6月13日
活動内容	【教育イノベーターの支援】 <ul style="list-style-type: none"> 国内外におけるEdTechの推進 Edvation x Summitの企画、運営 SXSW Edu EdTech Japan Team 企画、運営

EdTechグローバルカンファレンス
Edvation x Summit 2019

Education x Technology EdTech → Innovation → Edvation

多様なテーマとセッション構成で、産業界・教育界・キャピタリストなど
来場者の様々なニーズに対応

基調講演 (19:00-19:30) | Keynote | Networking | メンタリング | Education 2019 | Keynote | ワークショップ | EdTech Future Contest | EdTech Japan | ネットワーキング | ビジネスマッチング

イノベーションのためのアクティブなカンファレンスを開催

2-2. 昨年のEdvation x Summit 2018 開催実績

後援: 経済産業省, 文部科学省, 総務省, 東京都, 千代田区教育委員会, 内閣官庁IT総合戦略本部

パートナー企業: Adobe, NEC, RECRUIT, Sony Global Education, Z-KAI, 4COLLMS, Rakuten Super English, trans cosmos, iOS, LIXIL, JCS

協力: EdTech Japan, JAPAN FAIR 2018, dotstudio, MTU

イベントパートナー: SXSW EDU, edtechx africa, edtechx europe, edtechx asia

起業家 | 社会活動家

教師 | 社内イノベーター



一般社団法人教育イノベーション協議会 概要



代表理事 佐藤 昌宏

デジタルハリウッド大学大学院 教授
株式会社グローナビ 代表取締役



1967年生まれ。1992年日本電信電話株式会社入社。主に経営企画業務に従事。1999年に無料ISPライブドアの立上げに参画。2002年デジタルハリウッド株式会社執行役員に就任。日本初の株式会社立専門職大学院デジタルハリウッド大学大学院の設置を経験。同年、Eラーニング開発、人材育成コンサルティング事業を運営する株式会社グローナビを立ち上げ代表取締役社長に就任。

2009年より同大学院事務局長を経て専任教授としてデジタルテクノロジーを活用した教育イノベーションEdTechの研究実践および学生の指導にあたる。また2017年には一般社団法人教育イノベーション協議会を設立、代表理事に就任。教育に関する国の委員や全国の教育系起業家の育成にも関わる。著書に「EdTechが変える教育の未来」(インプレス)がある。



- ・内閣官房 教育再生実行会議 技術革新ワーキング 委員
- ・経産省 未来の教室とEdTech研究会 座長代理
- ・経産省 学びと社会の連携促進事業 アドバイザー
- ・経産省 我が国産業における人材力強化に向けた研究会 委員
- ・文科省 教育再生実行アドバイザー
- ・総務省 教育現場におけるクラウド活用の推進に関する有識者会合 構成員
- ・総務省 先導的教育システム実証事業PMOプロジェクトマネージャー
- ・総務省 地域IoT実装推進タスクフォース 構成委員
- ・総務省 スマートスクール・プラットフォーム実証事業 評価委員
- ・内閣府 RESAS普及専門家委員
- ・EdTech推進議員連盟(自民党) 設立支援
- ・一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC) 理事



人材開発部 シニアマネージャー
神尾 真弓

デジタルハリウッド大学大学院 佐藤昌宏研究室 研究員



2008年ITベンチャーにてWebコンサルティング事業の企画職に従事。2014より年NPO法人教育支援協会にて文部科学省、地方教育行政との協働による青少年育成事業指導者研修、地域教育のプログラム開発、高大接続入試改革の調査研究事業等。全国の教育委員会と連携し、高校生が文部科学省に向けて高大接続入試改革への政策提言する全国高校生100人委員会の企画立案等従事。

現在、デジタルハリウッド大学大学院 佐藤昌宏研究室にてEdTechの研究実践を行う。2018年より一般社団法人教育イノベーション協議会に参画。人材開発部シニアマネージャーに就任。教職員向けEdTech研修、ワークショップ等の企画、実施等。



現場のEdTech推進の現状

教員の授業ICT活用
OECD調査

世界ワースト

2位

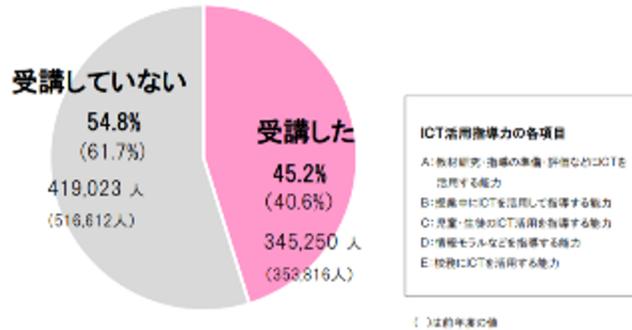


教員のICT活用指導力研修
参加率

50%以下

4. 研修の受講状況

① 平成29年度中にICT活用指導力の各項目に関する研修を受講した教員の割合



※1. ICT活用指導力の状況の各項目のうち、Eのみの研修は除く。
 ※2. 1人の教員が複数の研修を受講している場合も、「1人」とカウントする。
 ※3. 平成30年3月末日までの間に受講年度の発表も含む。

生徒のICTへの関心とスキル
PISA調査

OECD加盟国 ワースト

1位

1. 2018年度調査の結果

● OECD加盟国(74か国)における比較

国名	平均	標準偏差	平均	標準偏差
1 エルサルバドル	521	100	521	100
2 カナダ	520	100	520	100
3 フランス	519	100	519	100
4 アメリカ	518	100	518	100
5 韓国	514	100	514	100
6 オーストラリア	513	100	513	100
7 インドネシア	512	100	512	100
8 アイルランド	511	100	511	100
9 ニュージーランド	510	100	510	100
10 アイスランド	509	100	509	100
11 台湾	508	100	508	100
12 オーストラリア	507	100	507	100
13 オーストラリア	506	100	506	100
14 オーストラリア	505	100	505	100
15 オーストラリア	504	100	504	100
16 オーストラリア	503	100	503	100
17 オーストラリア	502	100	502	100
18 オーストラリア	501	100	501	100
19 オーストラリア	500	100	500	100
20 オーストラリア	499	100	499	100
21 オーストラリア	498	100	498	100
22 オーストラリア	497	100	497	100
23 オーストラリア	496	100	496	100
24 オーストラリア	495	100	495	100
25 オーストラリア	494	100	494	100
26 オーストラリア	493	100	493	100
27 オーストラリア	492	100	492	100
28 オーストラリア	491	100	491	100
29 オーストラリア	490	100	490	100
30 オーストラリア	489	100	489	100

● 全参加国・地域(76か国・地域)における比較

国名	平均	標準偏差	平均	標準偏差
1 全参加国・地域	500	100	500	100
2 アメリカ	499	100	499	100
3 フランス	498	100	498	100
4 韓国	497	100	497	100
5 エルサルバドル	496	100	496	100
6 カナダ	495	100	495	100
7 オーストラリア	494	100	494	100
8 アメリカ	493	100	493	100
9 フランス	492	100	492	100
10 エルサルバドル	491	100	491	100
11 カナダ	490	100	490	100
12 アメリカ	489	100	489	100
13 フランス	488	100	488	100
14 エルサルバドル	487	100	487	100
15 カナダ	486	100	486	100
16 アメリカ	485	100	485	100
17 フランス	484	100	484	100
18 エルサルバドル	483	100	483	100
19 カナダ	482	100	482	100
20 アメリカ	481	100	481	100
21 フランス	480	100	480	100
22 エルサルバドル	479	100	479	100
23 カナダ	478	100	478	100
24 アメリカ	477	100	477	100
25 フランス	476	100	476	100
26 エルサルバドル	475	100	475	100
27 カナダ	474	100	474	100
28 アメリカ	473	100	473	100
29 フランス	472	100	472	100
30 エルサルバドル	471	100	471	100
31 カナダ	470	100	470	100
32 アメリカ	469	100	469	100
33 フランス	468	100	468	100
34 エルサルバドル	467	100	467	100
35 カナダ	466	100	466	100
36 アメリカ	465	100	465	100
37 フランス	464	100	464	100
38 エルサルバドル	463	100	463	100
39 カナダ	462	100	462	100
40 アメリカ	461	100	461	100
41 フランス	460	100	460	100
42 エルサルバドル	459	100	459	100
43 カナダ	458	100	458	100
44 アメリカ	457	100	457	100
45 フランス	456	100	456	100
46 エルサルバドル	455	100	455	100
47 カナダ	454	100	454	100
48 アメリカ	453	100	453	100
49 フランス	452	100	452	100
50 エルサルバドル	451	100	451	100
51 カナダ	450	100	450	100
52 アメリカ	449	100	449	100
53 フランス	448	100	448	100
54 エルサルバドル	447	100	447	100
55 カナダ	446	100	446	100
56 アメリカ	445	100	445	100
57 フランス	444	100	444	100
58 エルサルバドル	443	100	443	100
59 カナダ	442	100	442	100
60 アメリカ	441	100	441	100
61 フランス	440	100	440	100
62 エルサルバドル	439	100	439	100
63 カナダ	438	100	438	100
64 アメリカ	437	100	437	100
65 フランス	436	100	436	100
66 エルサルバドル	435	100	435	100
67 カナダ	434	100	434	100
68 アメリカ	433	100	433	100
69 フランス	432	100	432	100
70 エルサルバドル	431	100	431	100
71 カナダ	430	100	430	100
72 アメリカ	429	100	429	100
73 フランス	428	100	428	100
74 エルサルバドル	427	100	427	100
75 カナダ	426	100	426	100
76 アメリカ	425	100	425	100

日本経済新聞 朝刊 2019年6月20日 2:00

平成29年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(概要) (平成30年3月現在) [確定値]

リセマム 2019年1月9日



現場のEdTech推進の現状

教員の授業ICT活用
OECD調査

教員のICT活用指導力研修
参加率

生徒のICTへの関心とスキル
OECD加盟国ワースト1位。

教員のEdTech推進状況が、
学習者の学びの在り方に
直結する。

50%以下

受講していない

ICT活用指導力の各項目

- A) 教材研究、指導の準備、評価などのICT活用に関する能力
- B) 授業やICTを活用して指導する能力
- C) 授業・指導のICT活用を指導する能力
- D) 授業やICT活用を指導する能力
- E) 特別にICTを活用する能力

※1. ICT活用指導力の状況の各項目のうち、Eのみの研修は除く。
※2. 1人の教員が複数の研修を受講している場合も、「1人」にカウントする。
※3. 平成30年3月末日までの間に受講予定の教員も含む。

生徒のICTへの関心とスキル
PISA調査

OECD加盟国 ワースト
1位

1. 2018年度調査の結果

● OECD加盟国(74ヶ国)における比較

順位	国名	平均	標準偏差	最低	最高
1	エストニア	541	10	520	562
2	オランダ	536	10	515	557
3	フィンランド	530	10	509	551
4	アイスランド	525	10	504	546
5	韓国	514	10	493	535
6	オーストラリア	511	10	490	532
7	フランス	505	10	484	526
8	ニュージーランド	500	10	479	521
9	アメリカ	495	10	474	516
10	イギリス	490	10	469	511
11	台湾	485	10	464	506
12	ポーランド	480	10	459	501
13	デンマーク	475	10	454	496
14	ベルギー	470	10	449	491
15	スウェーデン	465	10	444	486
16	ドイツ	460	10	439	481
17	韓国	455	10	434	476
18	オーストラリア	450	10	429	471
19	中国	445	10	424	466
20	日本	440	10	419	461

● 全参加国・地域(76ヶ国・地域)における比較

順位	国名	平均	標準偏差	最低	最高
1	エストニア	541	10	520	562
2	オランダ	536	10	515	557
3	フィンランド	530	10	509	551
4	アイスランド	525	10	504	546
5	韓国	514	10	493	535
6	オーストラリア	511	10	490	532
7	フランス	505	10	484	526
8	ニュージーランド	500	10	479	521
9	アメリカ	495	10	474	516
10	イギリス	490	10	469	511
11	台湾	485	10	464	506
12	ポーランド	480	10	459	501
13	デンマーク	475	10	454	496
14	ベルギー	470	10	449	491
15	スウェーデン	465	10	444	486
16	ドイツ	460	10	439	481
17	韓国	455	10	434	476
18	オーストラリア	450	10	429	471
19	中国	445	10	424	466
20	日本	440	10	419	461

日本経済新聞 朝刊 2019年6月20日 2:00

平成29年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(概要) (平成30年3月現在) [確定値]

リセマム 2019年1月9日



現場のICT活用・EdTech推進の課題整理

ICT活用の遅れや、それによる教育のイノベーション
(=EdTech) が起こらない現状に
**漠然とした課題意識はあるものの、
取り組みをどう始めるべきかに悩む教職員が多い。**

やってみたいことがあっても、
周りから理解してもらうのが難しい。

有効性に確信が持てない。

具体的に何をすればいいのか、イメージが沸かない...

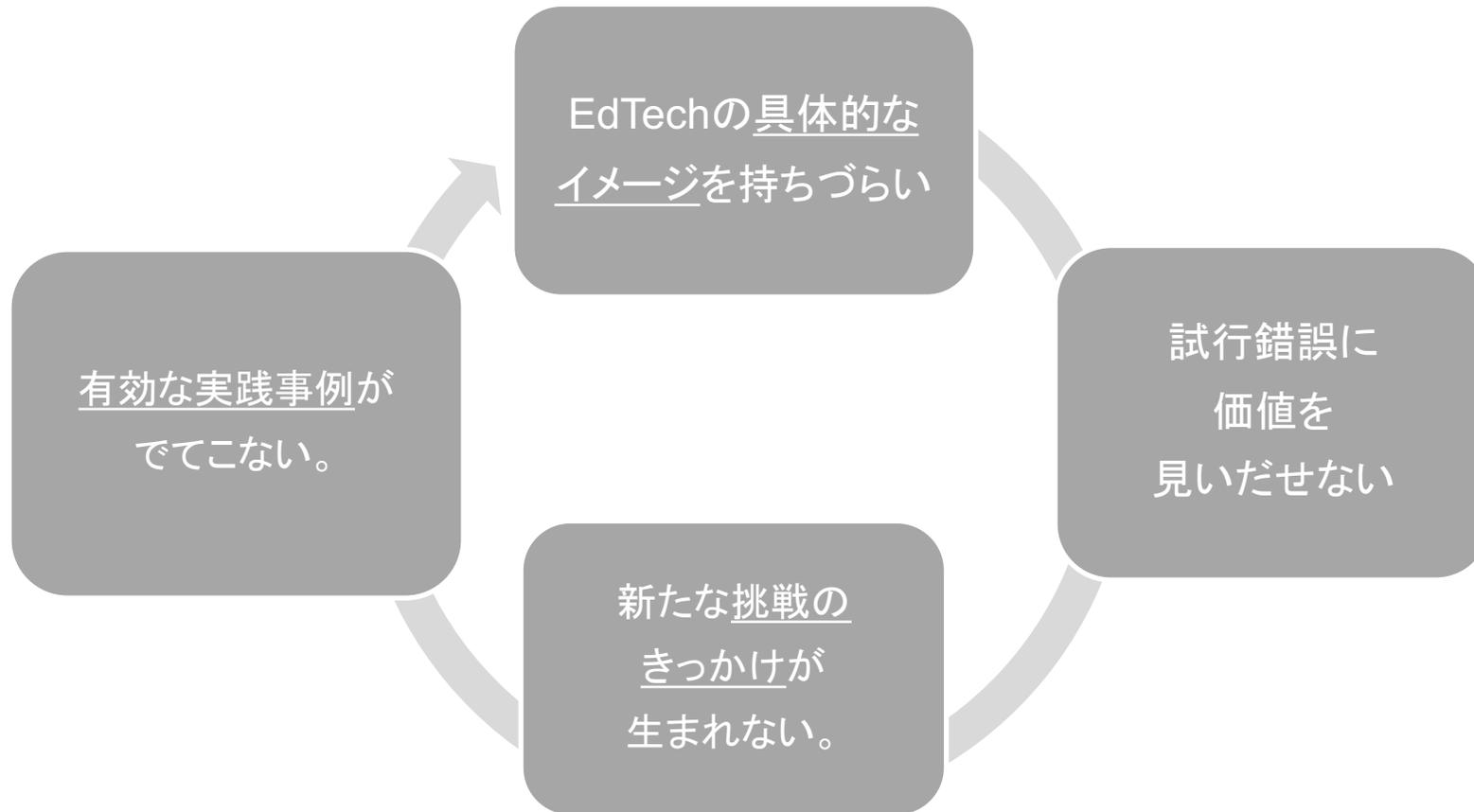
授業は成功が前提。失敗できない。

EdTechが変える教育の未来 教員研修のご提案



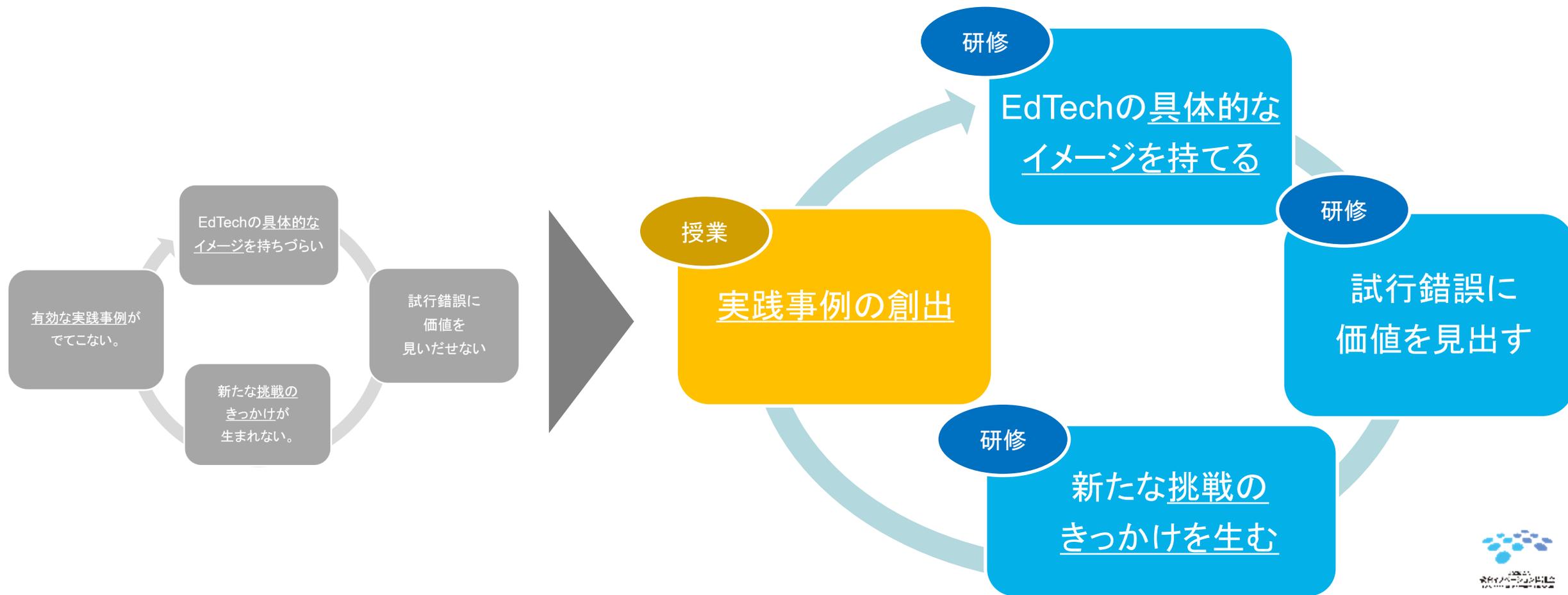
現場のICT活用・EdTech推進の課題整理

ICT活用・EdTechの推進が
停滞するパターンに陥っていませんか。



現場のEdTech推進の課題解決へのアプローチ

教職員の悩みに寄り添う研修を実施して、
ICT活用やEdTechが推進されるパターンにシフトしましょう。



現場のEdTech推進の課題解決へのアプローチ

EdTech推進 減速

①EdTechの具体的なイメージが持ちづらい

②試行錯誤に対する周りの理解を得ることが難しい。

③新たな挑戦のきっかけが生まれない。

④有効な実践事例がでてこない。

EdTech推進 加速

①EdTechの具体的なイメージが持てる

②試行錯誤に理解を得る、歓迎される。

③新たな挑戦のきっかけを生み出す。

④実践事例の創出

教員の変化 ※教員の実際の事例

EdTechで教育の未来がこんな風になるのか！

視野が広がった！
アイデアが湧いてきた。

- ・ 具体的な提案を、次の会議でしてみよう。
- ・ 勉強会を企画しよう。

次はもっと工夫をしてみよう。

研修

学校



EdTechが変える教育の未来 教員研修 概要

	講演	演習(ワークショップ)
ねらい	<ul style="list-style-type: none">・ 国内外のEdTech最新動向について知る。・ EdTech(デジタルテクノロジーを活用した教育のイノベーション)の具体的なイメージを持つ。・ EdTechによる学びの変化について、その必要性や有効性に気づきを得る。・ 教育現場の自主的なEdTechの実践のきっかけをつくる。	
対象	小中学校、特別支援学校、高等学校の教員、自治体、及び塾の講師等をはじめとする教育関係者・指導者 ※要望に応じて、生徒の参加も対応可能です。	
定員	なし	1回あたり30~40名程度
時間	30分~	90分~
内容	<ul style="list-style-type: none">・ EdTechとは・ 国内外のEdTech最新動向・ EdTechが進むと何が起こるのか？ 学習の個別最適化、学びのSTEAM化・ 教育現場のEdTech実践事例紹介・ 学びのアウトプット (意見交換・アクションプラン策定)	<ul style="list-style-type: none">・ EdTechとは・ 汎用的なツールと身近な学習ログを使ったEdTechの体験 <p>※特定のツールの使い方を覚えるためではなく、EdTechにより、授業や校務にどのようなイノベーションを創出するかという趣旨の演習です。</p>
推奨環境	スライドの投影が可能な会場 音声出力が可能 Wifi環境	Wifi環境、2013バージョン以降のオフィスが掲載されたPC(Mac可)1人1台 ※実際のICT環境に応じて工夫した実施をさせていただきますのでご相談ください。

事例① Edvation x summit 2019 高校教員対象研修 講演・演習(ワークショップ)

【内容】教育現場での自主的なEdTechの取り組みをどの様に進めていくかについて検討していた公立高校の教員の皆様からの発案により、講演・演習(ワークショップ)を開催。「EdTechとは何か」について具体的なイメージを持つことに絞った講演ののち、教科毎に分かれたグループに分かれ、授業でどのように実践していくかについて意見交換・具体的な授業の計画をして頂く場としました。発表の際は、約30名の高大生・企業の方も加わり、様々な角度から先生方の発表に対するフィードバックを頂きました。また、役職の先生方にオブザーバーとして参加頂き、先生方の試行錯誤や挑戦をどのように後押しするかについて意見を頂く時間としました。

【時間】講演70分、ワークショップ140分

【参加者】15名 公立高校 教諭
※ほか高校生、大学生、役職者教員、企業がオブザーバー参加



アンケート 一部抜粋

- 様々な**授業の広がり**と、これからコレが当たり前になってくるんだから、こちら(教員)が、しっかりとテクノロジーを扱えるようにならないといけないと痛感しました！
- ICTを活用した授業改善**について、**具体的なイメージ**をもてました。
- 実際に教材を作成**することが出来て、理解を深めることが出来ました。
- 自分の教育に対する**固定概念**が壊されました！パラダイムシフトですね！

事例② 島根県 隠岐郡海士町 教育委員会・教員・生徒対象研修 講演・演習(ワークショップ)

【内容】 EdTechがどのように学習者の学びを変えるのか、EdTechを学習センターのPBLにどのように活かすかについての講義・意見交換ののち、学習データのデジタル化とその活用をテーマにしたワークショップを実施しました。ワークショップには高校生(希望者)も参加し、実際の授業を想定した指導の実践に向けた体験の場としました。



【時間】 講演90分、ワークショップ120分

【参加者】 25名 町立小・中学校教員、島根県立隠岐島前高校 校長及び教員、海士町教育委員会職員、隠岐ノ國学習センターコーディネーター、スタッフ



アンケート 一部抜粋

- 見える化することが非常に有効な場面が多いと思った。まさにそれも実践しながら深めていくことも重要だと思った。
- 学習ログのデジタル化について、具体的なイメージを持つことができた。
- 授業のハイライトを分析することに使いそうだなと思いました。

事例③大阪府学習塾グループ幹部・幹部候補者 対象研修 講演・演習(ワークショップ)

【内容】 10年後の塾像、塾ブランドのアップデートに向けた中長期的なプロジェクトキックオフでの講演・ワークショップを実施しました。国内外のEdTech最新動向、教育イノベーターの必要性についての講義・意見交換ののち、学習データのデジタル化とその活用をテーマにしたワークショップを実施しました。参加者に親しみのある表計算ソフトやプレゼンテーションソフトと最新のEdTechツールを組み合わせることで、日常的に扱っている学習者のデータを指導に活用できることを体験する場としました。

【時間】 講演30分、ワークショップ80分

【参加者】 6名 学習塾グループ幹部候補者
※ほか7名の幹部がオブザーバー参加

EdTech
EDUCATION TECHNOLOGY

Digitalaization



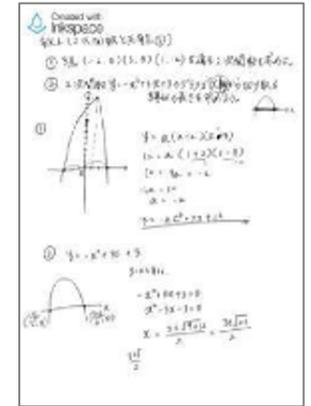
汎用的なツールと身近なデータで
こんなことができる。

EdTech
EDUCATION TECHNOLOGY

Digitalaization

…

Dataをとる → Dataをつかう → Dataでつくる



アンケート 一部抜粋

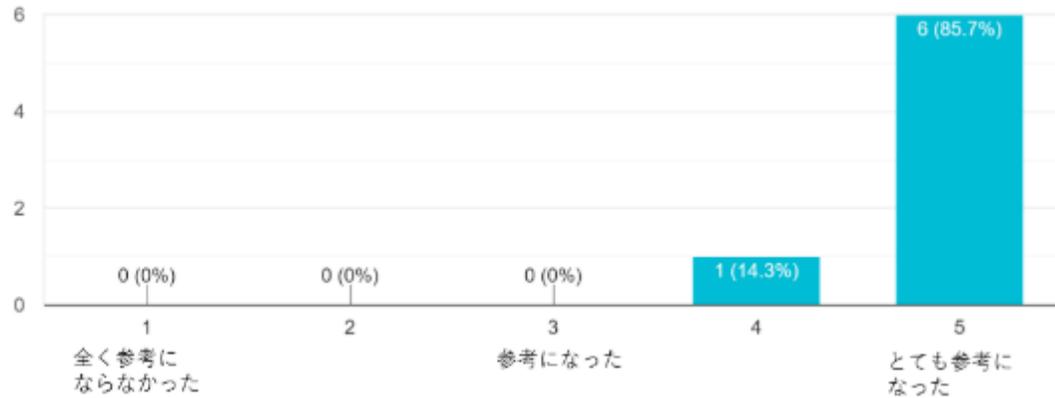
- デジタルに対する抵抗感が薄れ、色々な可能性を感じ、ワクワクしました。
- EdTechは自分が思っている以上に可能性があるということに気付いて良かったです。特に学習ログについては大変関心を持ちました。
- 『今ある技術をどう現場で使用するか』という視点でついものごとを見がちでしたが、『こういう技術があれば、だれのために・何のために』と考え方を変えることで自由な発想が出てくると感じました。

参加者アンケート結果

質問：今回のワークショップは、EdTechについてのイメージを深めるにあたって参考になりましたか？

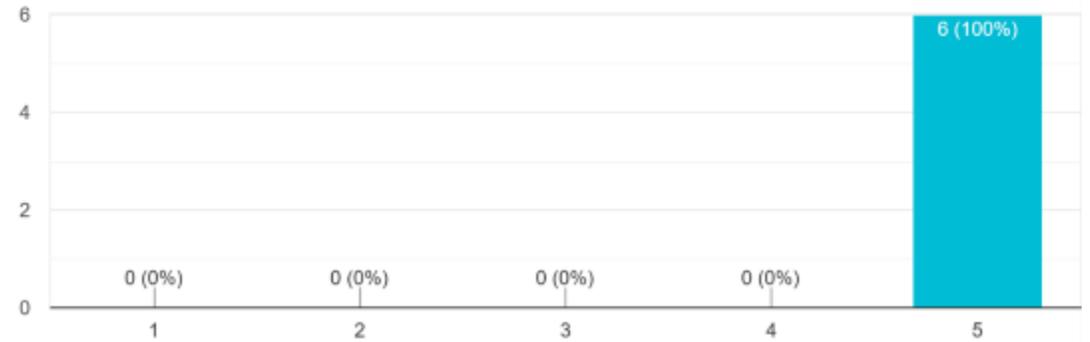
Edviation x summit 高校教員の皆様

7件の回答



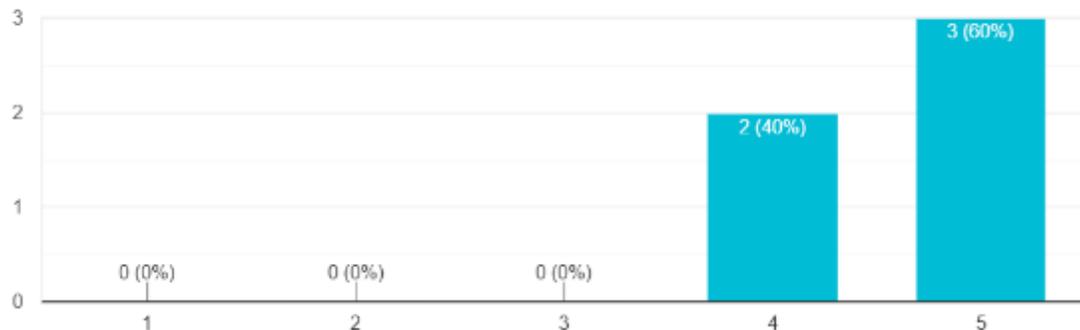
塾グループ 幹部の皆様

6件の回答



隠岐郡 海士町 教育関係者

5件の回答



参加者した全員が、EdTechについてのイメージを深めることが出来たと回答。

現場の試行錯誤・挑戦を支援するフォローアップ体制

EdTech Japan Community

約900名の教育イノベーターによるオンラインコミュニティ。教員、研究者、EdTech関連企業経営者・社員、学生等がメンバー。様々なステイクホルダーがオンライン上で交流や情報交換を行う。



SXSW Edu EdTech Japan Team

3月に開催されるEdTech国際カンファレンスSXSW Eduへの視察、スピーカーの登壇、EdTech Japan TeamとしてEXPO出展等。世界の最新動向をキャッチアップ、日本の情報を発信している。帰国後、国内での報告会も開催。



Edviation x summit



国内外から3000名を超える教育のイノベーターが一同に会するEdTechの国際カンファレンス。新しい教育の選択肢を知って頂くこと、既成概念にとらわれない教育イノベーターを生み出すことを目的に開催している。最新展示のみならず、様々な立場の教育関係者が日々の実践を発信したり、ワークショップを通じて対話を重ねる等、アクティブなカンファレンスにするとともに、次代を担う子どもたちが最先端のイノベーションを体感できる場を創造している。



個別相談

ほか、個々のご相談等を個別に受け付ける相談窓口や、クローズドな受講者コミュニティ等、現場の皆様の試行錯誤・挑戦を支援するフォローアップ体制をご用意しております。

演習(ワークショップ)テーマ例

- ・学習成果のデジタル化

～学習ログが可能にする、新しい学びの在り方を体験～

デジタルデータを活用したの学びの有効性を理解する

MS Officeを使ってできるEdTechの体験

- ・検索でここまでできる！

情報活用能力とはなにか？ ブラウザ1つでここまでできる、探求に必要な検索スキル。

- ・オンライン会議ツールをクラスの授業で使ったら？

児童・生徒の見取りに活かす、オンライン会議ツールの活用法とは。

- ・プログラミングは、子どもの創造力を解き放つ

プログラミング的思考の育成を通じて、学びに向かう力をどう引き出すか。

- ・子どもは今も、AIで遊び、AIと学んでいる。

汎用的なAIツールを使って、先端技術のしくみを理解する

演習(ワークショップ) 提案例①

研修時間：180分

「学習成果のデジタル化 ～学習ログが可能にする、新しい学びの在り方を体験～」
汎用的なツールと身近なデータを題材に、デジタルデータだからこそ可能になる学習ログを使った新しい学びの在り方を体験していきます。

120分

「**学習ログをとる**」 事例紹介・体験

学習ログは身近なところに沢山あった！
日々の指導で扱う生徒の学習の記録を、簡単にデータ化(学習ログ化)する。

「**学習ログを使う**」 事例紹介・体験

同じ記録を扱っているのに、これまでになかった気づきが生まれる！

「**学習ログで創る**」 事例紹介・体験

学習ログを手にした生徒が、自らの手で次の学びを創り出す！

10分

「**気づきの共有、意見交換、今日の学びをログにする**」 意見交換・体験

気づきの共有、学びの共有を目的とした意見交換、今日の学びをログにして内省に使う価値を体験。

45分

「**授業での活用の検討**」 活用検討

実際の授業での活用時のアイデア検討を目的にしたディスカッション

5分

質疑応答・アンケート

演習(ワークショップ) 提案例②

研修時間：80~120分

「学習成果のデジタル化 ～学習ログが可能にする、新しい学びの在り方を体験～」
汎用的なツールと身近なデータを題材に、デジタルデータだからこそ可能になる学習ログを使った新しい学びの在り方を体験していきます。

105分

「**学習ログをとる**」 事例紹介

学習ログは身近なところに沢山あった！
日々の指導で扱う生徒の学習の記録が、簡単にデータ化(学習ログ化)する。

「**学習ログを使う**」 事例紹介・体験

同じ記録を扱っているのに、これまでになかった気づき生まれる！

「**学習ログで創る**」 事例紹介・体験

学習ログを手にした生徒が、自らの手で次の学びを創り出す！

10分

「**気づきの共有、意見交換**」 意見交換

気づきの共有、学びの共有を目的とした意見交換

5分

質疑応答・アンケート

教員研修開催準備から実践フォローアップまでの流れ

ヒアリング

研修当日

フォローアップ

※ヒアリングから当日まで、2～3週間程度お時間を頂戴します。



進教育現場でのEdTech推進にあたり、どのようなことが課題になっているのかヒアリングさせて頂き、現場の困りごとの解決に繋がる講演・演習(ワークショップ)を設計していきます。

演習(ワークショップ)開催の場合、研修会場・機材の環境等の確認について、ご協力をお願い致します。

※開催地が遠方の場合は、メール・オンライン会議ツール等でお打ち合わせとさせていただきます。



演習(ワークショップ)開催の場合、当日1時間前には会場入りさせて頂き、機材のセッティング等を行います。

必要な場合は、こちらでアシスタントティーチャーを手配させていただきます。



参加終了後、オンラインをベースにした学び合いコミュニティに参加(任意、希望者)頂くことで、全国の教育関係者の皆様との情報交換が可能になります。

実践する上での困りごとを、学び合いで解決していきます。